

雑報

雑誌名	龍南會雑誌
巻	2 1
ページ	4 1 - 4 2
発行年	1893-12-20
その他の言語のタイトル	雑報
URL	http://hdl.handle.net/2298/4155

き馬工丁を従めて澤にたる木賃番仲昨日まで畿内人なき旭將軍の最期を見て、焉くんぞ彼の琴線を挑發せざらんや。飯令此時、怨を平家よ報いんとするの情火猶ほ熾かりしとは云へ、焉くんぞ悲觀の端を此に發せざらんや。

吾人は君の如き好文友を得たるを喜ぶ。斯道の爲に自愛せよ。妄批當を失す。多罪多罪。

雜 報

○天長地久

鳴鶴天に翔る、蓋玄太平を謳ふか、遊龜巖に翔る、蓋玄治世を樂むか。

恭玄く惟るに、明治第一年、今上陛下、登極あらせられしよし、茲より二十有六春秋、五教を布き、九功を叙し、夙に百姓を平章し、又た萬邦を協和し玉ふ、黎民德に浴し、於變時雍、茲は天長の佳節に遇ひ、感喜何ぞ堪へん、誠惶誠恐、謹めて 寶壽萬歲、天祚萬歲、を祝し奉る。

○公開狀

小生本日神田區一ツ橋通町高等師範學校附屬學校構内へ引移候間此段御通知申上候
十一月十二日

龍南會御中

嘉納 治五郎

○各部彙報

●擊劍部は舊に依りて盛なり

●柔道部は一月五日紅白勝負を開く不相變勇壯

●戶外遊戲部は十二月三日月次小會を開く行軍後の餘勇を鼓して「ボール」を弄し「バット」を振ふ是も亦壯快

●弓術部は新に生駒先生を聘し得て射法の故實までも研究中

●演說部は行軍の爲めに月次會を開くを得ざりき

●黒本助教授 大分師範學校教諭黒本植氏は本校助教授に轉ぎ行軍中大分より一行と共に來校せられたり文部指定の方針に従うて各級の作文科を教授せらるゝとか

○出張 中川學校長は福岡佐賀長崎の尋常中學に秋月教授は長崎醫學部出張を命ぜられ去月既に出發ありたり

○行軍 到る處の歡迎如何に鄭重ありきよ到る處の江山如何に秀麗ありきよ今回の一行校威を四州の要樞に伸張し得天下れ名社に賽し天下の名山水を踏むを得たり歸來胸懷の殆んど昔日のものにあらざるを覺ふ特に吾人行軍中校長以下諸先生が毎事生徒と勞苦を分たれたるを感謝す今や天下に到る處師弟反目の風ありと聞く吾人は寒村銃を枕にえて寐ね早起霜風の峭削たるを衝いて發するとき顧みて諸先生の吾人へ親しきを見る毎に吾人は一團の春風來りて吾面を拂ふを覺へずんばあらず

○訃報 此筆何の凶筆ぞ吾人は殆んど毎號訃報を介せざるを得ざるを悲しむ豫科二級生加來德輝君は快活なる心身を以て去日熊本病院に逝く

○復會 太田千尋君

○寄贈雜誌 校友會雜誌。尙志會雜誌。壬辰會雜誌。學友。錦溪。青年。國教。及少年園の寄贈を忝うす

廣告

改名

仲丸事

水月哲英